

## 論文審査の要旨

報告番号	乙 第 2936 号	氏 名	濱田 尚子
論文審査担当者	主査 土岐 彰 教授 副査 板橋 家頭夫 教授 副査 長塚 正晃 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>癒着胎盤で特徴的な超音波所見とされる placenta lacunae と clear zone の欠如について、それらの特異性を明らかにするため、昭和大学病院で分娩し、分娩直前の超音波検査でそれら所見について記載されていた単胎妊娠 2413 例を対象に後方視的に解析した論文である。</p> <p>前置胎盤症例における癒着及び非癒着胎盤でのこれらの超音波所見の出現頻度を比較した結果、clear zone の欠如の頻度は、癒着胎盤例で 60%(3 例)、癒着胎盤なし例で 1.5%(1 例)であった(<math>p&lt;0.001</math>)。placenta lacunae は癒着胎盤例で 60%(3 例)、癒着胎盤なし症例で 29.2%(19 例)であった(<math>p=0.316</math>)。</p> <p>次に、分娩時に前置胎盤と診断された症例と、1:5 で母体年齢をマッチさせた常位胎盤症例とを比較した結果、placenta lacunae の頻度は前置胎盤で 31.4%(22 例)、常位胎盤で 9.7%(34 例)に認め、clear zone の欠如所見は前置胎盤で 5.7%(4 例)、常位胎盤で 0.9%(3 例)に確認でき、両所見とも常位胎盤に比べ、前置胎盤において有意に高頻度に認めた。このことから、placenta lacunae は必ずしも癒着胎盤に特異的な所見ではないが、前置胎盤に clear zone の欠如所見を認めた場合には、癒着胎盤を念頭に入れた術前準備が重要であることを明らかにした。</p> <p>以上の研究成果は超音波検査における癒着胎盤の合併予測に関する新知見を含んでおり、高い学術的価値を有し、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名：</p> <p>Ultrasonographic findings of placenta lacunae and a lack of a clear zone in cases with placenta previa and normal placenta          (前置胎盤における placenta lacunae、clear zone の欠如の超音波所見に関する検討)</p> <p>掲載雑誌名：</p> <p>PRENATAL DIAGNOSIS vol.31, Issue 11, pages 1062-1065, 2011 年 掲載済</p>			

(主査が記載、500 字以内)